

鶏肉情勢

令和6年1月15日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
供給	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和5年11月末実施)によると、11月の推計実績は処理羽数62,919千羽(前年比102.2%)、処理重量191.5千ト(同101.1%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.2%下方修正、処理重量は0.6%上方修正された。増体は順調であったことが伺える。一方で、11月は寒暖差が大きかったため、換気管理が上手くいかず斃死や検査廃棄が発生した農場もあったとのことで、成績にバラつきがあったようだ。 (2) 12月の計画は処理羽数は全地区で前年を上回る予想となっており、処理重量は近畿・中国・四国地区、北部九州地区が前年を下回る予想となっている。1月9日時点で、6県6例(肉用鶏1例)、家きんより高病原性鳥インフルエンザの発生が報告されている。今後、寒さが厳しくなっていくことから、さらなる拡大が懸念される。 工場の人員不足については外国人技能実習生が来日するようになったことで、少しづつ解消されており、加工品(切り身・手羽中二ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の生産は徐々に回復している。
	2. 輸入 (1) 財務省12月27日公表の貿易統計によると令和5年11月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲8.6千トの39.2千トで、国別ではブラジルが前月▲6.9千トの22.9千トでタイが▲1.5千トの15.0千トとなり、ブラジル・タイともに減少となった。前年同月の実績に対しては▲10.6千トとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、ブラジルでの鳥インフルエンザによる輸入停止措置の影響は12月には解消されるため、12月が47.0千ト(前年比106.1%)、1月は46.6千ト(前年比105.0%)となっている。ブラジルは11月まで減少しているが、タイ・アメリカは順調に入荷しており、特にアメリカ産については昨年鳥インフルエンザ流行の影響で入荷がほとんどなかった七面鳥の輸入も回復している。今後の国産鶏肉への影響を注視したい。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から+2.2千トの46.6千トで、国別では中国が+2.7千ト、タイが▲0.6千トとなった。前年同月の実績に対しては+3.5千トとなり、前月比・前年比ともに上回る結果となった。タイの生産は引き続き安定しているが、11月実績は若干の減少となった。価格については依然として高騰している状況である。外食についてはインバウンド需要等で回復しており、中食・総菜向け等の引き合いも安定的に継続している状況である。 (3) 財務省が12月27日に公表した貿易統計によると11月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より17.1%下降し、鶏肉調整品は前年同月より1.6%下降した。国別ではブラジル産の価格が325円/kg(前月比6円安)、タイ産が417円/kg(同11円高)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジル・タイともに下降した状況である。ブラジル産は11月実績はやや下げ基調となっており、国内在庫が潤沢なことや先々の入荷も回復する見込みとなるため、国内市場価格は下降傾向となっている。タイ産についても国内市場価格は下げ基調となっており、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和5年11月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比100.4%の4.8千トとなった。うち国内品は同89.3%の3.6千トと前年を下回り、輸入品については同160.5%の1.2千トと前年を上回った。

実績											
生産状況 単位:千羽、千トン、%											
	R4年累計		R5年11月推計実績		R5年12月計画		R6年1月計画		R6年2月計画		
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	
入雛羽数	774,648	100.1%	63,562	101.3%	69,038	101.0%	67,241	102.4%	62,418	102.8%	
処理羽数	737,217	100.2%	62,919	102.2%	68,207	101.9%	61,182	101.8%	60,749	104.6%	
処理重量	2,224.1	99.9%	191.5	101.1%	206.7	100.9%	184.8	101.3%	182.7	104.4%	
※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」											
輸入動向 単位:千トン、%											
品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年6月	57.7	52.2	110.6	39.7	46.2	86.0	88.1	92.9	94.8	65.5	45.1
R5年7月	46.7	45.6	102.3	39.5	43.8	90.1	86.2	89.4	96.3	54.2	45.8
R5年8月	56.0	47.4	118.1	40.4	47.8	84.5	96.3	95.2	101.2	58.1	41.9
R5年9月	48.4	46.8	103.4	40.8	44.3	92.2	89.2	91.0	98.0	54.2	45.8
R5年10月	47.8	53.9	88.6	44.4	44.1	100.6	92.2	98.1	94.0	51.9	48.1
R5年11月	39.2	49.8	78.7	46.6	43.1	108.2	85.8	92.9	92.4	45.7	54.3
※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%											
履歴	数量			金額			相場(年別・暦年) 単位:円				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		モモ肉	ムネ肉	計	
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9	H28年	621	255	876	
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7	H29年	626	315	941	
R5年6月	1,455	1,433	101.5	1,492	1,375	108.5	H30年	595	282	877	
R5年7月	1,361	1,439	94.6	1,422	1,345	105.7	R元年	585	243	828	
R5年8月	1,363	1,372	99.3	1,411	1,309	107.8	R2年	614	269	883	
R5年9月	1,424	1,492	95.4	1,487	1,386	107.3	R3年	641	313	954	
R5年10月	1,502	1,574	95.4	1,587	1,534	103.5	R4年	662	348	1,010	
R5年11月	1,508	1,495	100.9	1,569	1,505	104.3	R5年	730	395	1,125	
※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)											
在庫状況(推定) 単位:千トン、%											
履歴	国産			輸入品			合計				
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R5年6月	28.6	30.5	93.7	133.6	119.1	112.2	162.2	149.6	108.5		
R5年7月	30.6	28.9	106.0	129.6	121.1	107.0	160.2	150.0	106.8		
R5年8月	32.0	28.5	112.3	133.3	121.2	110.0	165.3	149.7	110.4		
R5年9月	30.0	25.8	116.3	132.5	121.2	109.3	162.5	147.1	110.5		
R5年10月	29.8	25.2	118.0	130.9	127.5	102.7	160.7	152.7	105.2		
R5年11月	30.9	23.4	132.1	120.0	129.9	92.3	150.8	153.3	98.4		
※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
相場(月別) 単位:円、%											
品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計				
履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7		
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9		
R5年平均	730	662	110.3	395	348	113.5	1,125	1,010	111.4		
R5年9月	646	667	96.9	374	364	102.7	1,020	1,031	98.9		
R5年10月	649	697	93.1	369	376	98.1	1,018	1,073	94.9		
R5年11月	673	729	92.3	374	396	94.4	1,047	1,125	93.1		
R5年12月	691	773	89.4	377	417	90.4	1,068	1,190	89.7		
R6年1月	(700)	805	87.0	(370)	422	87.7	(1,070)	1,227	87.2		
R6年2月	(690)	800	86.3	(370)	414	89.4	(1,060)	1,214	87.3		
※()は見直し											
相場	1. 令和5年12月動向 (1) 令和5年12月の月平均相場は、モモ肉691円/kg(前月差+18円)・ムネ肉377円/kg(同+3円)正肉合計で1,068円/2kgと前月を21円上回り、前年同月を122円下回った。モモ肉相場は月初680円、月末は718円となり(昨年は月初755円、月末797円)、前月に引き続き、前年の相場を下回った。 生産においては、12月は寒暖差が厳しかったが、比較的順調に推移している。モモ肉においては、不足感はなかったが、年末に向けて順調に推移した。ムネ肉は生鮮品は落ち着いてきたが、加工原料として冷凍品の引き合いは強い。また、安価な商品として、手羽もとを特売する量販店が増え、生鮮品・冷凍品とも不足の状況が続いている。 相場はモモ肉は月末718円まで上がり、12月も引き続き高水準を維持した。										
	2. 見直し (1) 1月の生産量は、前年並みの計画である。今年は暖冬の予測が出ており生産は順調に推移していくと思われる。令和5年度は家きんより、6県6例の高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された。前年度の同期間では16県30例発生しており、抑えられてはいるが、今後、冷え込みが強くなっていくことから、拡大が懸念される。 日中の気温も下がり、売り場には鍋用スープ・つみれ等の鍋商材が多く販売されている。モモ肉・モモ肉切身の売り場も広がり、特売を打つ量販店も多くなった。ムネ肉においても、節約志向による値頃感や加工原料として生鮮品・冷凍品とも引き続き順調に推移すると思われる。 以上のことから、モモ肉相場は下げ基調に転ずるが月平均700円、ムネ肉相場はもちあいの月平均370円と予測する。 (2) 12月を終え、年間平均相場は正肉合計で1,125円(モモ肉730円 ムネ肉395円)と前年を越え高い水準を維持した。年末年始は、鳥インフルエンザの影響もなく、生産も順調だったため不足感は感じられなかった。量販店も正月三が日は休みの店が多く、モモ肉解凍品を販売している店舗は少なかった。訴求用として、輸入モモ肉(解凍品)を販売している店舗が多く見られた。成人の日以降は、モモ肉の売れは落ち着き、相場も下げ基調に転ずると思われる。ムネ肉も生鮮品の売れは落ち着いてきたが、冷凍品の引き合いは強い。量販店では、節約志向により、牛肉から豚肉、鶏肉へ需要のシフトが続いている。他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は今後も底堅く推移すると思われる。輸入品がテーブルミートにおいて拡大する懸念が多少あり、前年には及ばないが、鶏肉相場は引き続き高水準で推移していくと思われる。										